

## 「桜通勤 2017 (3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

日本橋川を渡ったあとも、この川沿いの裏道を自転車は進む。この河畔の桜も見事だが、このあたりは、路上生活をする人が多く、花見の人も遠慮してか、あまり酒宴を見たことがない。朝晩は寒い日も多いので、路上で暮らす人には、まだまだつらいと思う。



箱崎インター入口を過ぎて、ペインター本社前を直行すると、次の交差点が証券会社の多い兜町。ここにかかる橋も「鎧橋」と厳めしい名称だ。しかし、この桜も実に見事である。



ここは、優先道路を横切るので、自転車にとっては赤信号が長く、普段はイライラして待つのだが、桜の時期だけは逆である。青信号だと通過なので、赤信号にならないかな〜、と思ったりする。ここは交差点脇の狭い空地だが、トイレもあるので、夜になると必ず酒宴の団体が陣取っている。



これは、鎧橋の対岸を見たところ。対岸にも見事な桜が植えてある。日当たりが良く、何も邪魔するものがない桜なので、理想的な樹容(自形)を呈している。下を流れるのが日本橋川で、もうすぐ散った桜の花びらで埋め尽くされる。その花びらがゆっくりと流れて、橋脚にぶつかるので、桜の花びら(花いかだ)による、珍しい「カルマン渦」を観察できる。



更に進むと、江戸橋の手前の「小網町」に入る。日清製粉のとなりの児童公園にも、見事な桜がある。児童公園と言いながら、子どもたちの姿を一回も見ることがない。ここは知る人ぞ知る、隠れた花見の名所らしく、午後になると、「青いブルーシート」が目立ち始め、夜桜を楽しむ準備が始まる。